

氏名	松下 誠	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	臨床化学、病態検査学				
学位	博士(医学)				
学歴	東京理科大学理学部化学科				
経歴	昭和大学藤が丘病院中央検査部、埼玉県立衛生短期大学講師、スウェーデンウメオ大学臨床生化学教室研究員、埼玉県立大学短期大学部助教授、埼玉県立大学教授、				
所属学会(役職)	日本臨床検査学教育学会(理事)、日本臨床化学会(評議員)、日本電気泳動学会(評議員)、日本臨床検査自動化学会、日本臨床衛生検査技師会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	新IFCC法におけるALP活性と血液型との関係	共著	日本臨床検査自動化学会会誌;41(2);P.227-232	小林恵穂, 加藤文音, 青柳絵里香, 大森雅, 松下 誠	2016.4
2	分光光度分析法の可能性と限界	共著	臨床検査;60:P518-525	松下誠 , 亀沢幸雄	2016.5
3	蛋白質に特異性の高いニッケル-ピウレット法を用いる血清総蛋白の2-point rate法の考案	共著	日本臨床検査自動化学会会誌;41(5);P.692-696	工藤思華, 大野頑張, 金谷水樹, 長浦淳, 吉村梨菜, 青柳絵里香, 永井謙一, 村本良三, 松下誠	2016.11
4	ALP活性測定法の変遷と血液型の相違に伴う基準範囲の相違との関係、現在のJSCC法からIFCC法への変更を考慮した検討	共著	臨床検査;61:P92-97	大野頑張, 坂内沙耶佳, 丸田結花, 金谷水樹, 工藤思華, 長浦淳, 吉村梨菜, 松下誠	2017.1
(3) 学会発表					
1	Study of the reference material suitable for IFCC method of ALP measurement	共著	68th AACCC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo, Philadelphia	○S. Yamadate, H. Yamazaki, M. Matsushita , T. Hoshino, S. Ueda, T. Nakayama	2016.8
2	ヒトアルブミンを共通のキャリブレーションとする総蛋白、アルブミン測定法の評価	共著	第11回日本臨床検査学教育学会学術大会、神戸市	○森田有紀, 岡田穂乃香, 松下誠	2016.9
3	IFCC法におけるALP活性と互換性のあるALPアイソザイム分析法の考案	共著	第11回日本臨床検査学教育学会学術大会、神戸市	○長島佳美, 芦川茉帆, 松下誠	2016.9
4	血液型や食事の影響を受けないALP活性測定法に関する検討	共著	第11回日本臨床検査学教育学会学術大会、神戸市	○芦川茉帆, 長島佳美, 松下誠	2016.9
5	Extent of hemoglobin interference during serum total protein measurement is affected by biuret reagent used.	共著	The 32nd world congress of biomedical laboratory science, Kobe	○K.Nagai, M.Matsushita , T.Arai, N.Ihara, Y.Muramoto, J.Yamaguchi, R.Miki, K.Kamiyama	2016.9
6	自動分析法と電気泳動法におけるA/G比の相違	共著	日本臨床検査自動化学会第48回大会、横浜市	○岡田穂乃香, 金谷水樹, 永井謙一, 森田有紀, 松下誠	2016.9

(4) その他				
1	該当なし			
2				
3				
2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本臨床化学会関東支部分科会プロジェクト	血清総蛋白測定の問題点の整理とその標準化に関する研究(研究分担者)	2015.9～2017.8	
2				
3				
3. 教育業績				
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
(1) 講義				
1	臨床化学分析	2016.4～2016.9	私が編著として関わっている臨床化学検査学を教科書として実施した。	
2	臨床化学検査学	2016.9～2017.3	私が編著として関わっている臨床化学検査学を教科書として実施した。	
3				
(2) 演習				
1	臨床検査薬演習	2016.9～2017.3	本学オリジナルの演習テキストを作成して実施した。	
2	健康福祉科学演習(生体情報評価学)	2016.9～2017.3	特別研究指導教員として大学院生に文献抄読会を実施した。	
3				
(3) 実習				
1	臨床化学分析実習	2016.4～2016.9	本学オリジナルの実習テキストを作成して実施した。	
2	臨床化学検査学実習	2016.9～2017.3	本学オリジナルの実習テキストを作成して実施した。	
3				
(4) 論文指導				
1	修士課程	2016.4～2017.3	指導教員として2名、副指導教員として1名を指導した。	
2				
3				
(5) その他				
1	卒業研究	2016.4～2017.3	検査技術科学専攻4年次生4名を指導した。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	第33回日本臨床化学会関東支部例会	日本臨床化学会	血清蛋白質検査の矛盾と課題	2016.11
2				
3				
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	日本臨床検査学教育協議会	副理事長	2015.4～	
2	日本臨床検査学教育学会	理事	2011.4～	
3	日本臨床化学	評議員	1999.4～	
4	日本電気泳動学会	評議員	2002.4～	
5	日本臨床化学会関東支部	幹事	1999.4～	
6	臨床検査技師試験委員会	委員	2015.6～	

(3)ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	教育研究審議会委員		
2	健康開発学科学科長		
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	第33回日本臨床化学会 関東支部例会長 (平成28年11月12日、埼玉県立大学で開催した)		